

# 令和6年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【さいたま市立美園中学校】

⑥	次年度への課題と授業改善策	
知識・技能	目標の定期テスト(5教科の正答率)70%以上の達成に向け、自主学習(実のチャレ、スタディサプリ、ドリルパーク等)を進める取組の更なる強化を目指したい。知識・技能の定着が低い生徒への支援や、個々の習熟度に合わせた内容を繰り返し学習できるような個別最適化を目指した支援の取組を進めていきたい。	
思考・判断・表現	目標の定期テスト(5教科の正答率)55%以上の維持に向け、各教科の学習内容と、STEAM S TIMEの活動との関連をより意識し、教科等横断的な探究活動のより一層の充実を目指したい。身につけた知識・技能を土台とし、3年間を見通して、段階的に思考力・判断力・表現力の育成を図る学習活動をさせていきたい。	

①	今年度の課題と授業改善策	
	学習上・指導上の課題	授業改善策【評価方法】
知識・技能	【学習上の課題】 知識の概念的な理解を問う問題に弱く、特に文章による説明する力が弱い。 【指導上の課題】 振り返りや見直しをする時間の確保ができておらず、家庭学習の時間も少ない。	⇒ 定期テスト(5教科の正答率)70%以上の達成に向け、自主学習(実のチャレ、スタディサプリ、ドリルパーク等)を進める取組の更なる強化を目指したい。知識・技能の定着が低い生徒への支援や、個々の習熟度に合わせた内容を繰り返し学習できるような個別最適化された支援を目指し、取組を進めていく。
思考・判断・表現	【学習上の課題】 自分が学んだ知識・技能を活用して、考えをまとめたり表現したりする力が弱い。 【指導上の課題】 他教科との関連性や生徒の思考を深めていく授業展開が不十分などところがある。	⇒ 定期テスト(5教科の正答率)50%以上の維持、向上に向け、各教科の学習内容と、「STEAM S TIMEの活動」との関連をより意識し、教科等横断的な探究活動のより一層の充実を目指したい。身につけた知識・技能を土台とし、段階的な思考力・判断力・表現力の育成を図っていく。

⑤	評価(※)	調査結果 授業改善策の達成状況
知識・技能	A	自主的に学習を進める取組を各教科や学年で強化した。定期テストにおいて、5教科(国語・数学・G・S・理科・社会)の当該学年で習得すべき、「知識・技能」に関する問題の正答率が目標の70%に対し、66.2%であり、達成率95%となった。
思考・判断・表現	A	「STEAM S TIME」を中心として各教科で、主体的・対話的で深い学びを通じた問題解決型の学習活動に努めた。定期テストにおいて、5教科(国語・数学・G・S・理科・社会)の当該学年で習得すべき、「思考・判断・表現」に関する問題の正答率が、目標の50%に対し55%であり、達成率110%となった。

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)	
知識・技能	国語は若干下回ったが数学は大きく上回る結果となった。国語では、「短文に用いられている表現の技法を説明」の問題の正答率が低かったことについて課題が見られた。詩や短文の特徴や筆者の伝えたいことを考えさせながら、表現の工夫について考えさせていく活動を重視したい。数学では、「連続する二つの偶数を、文字を用いた式で表す」問題について無回答率が高かった。このことから、文字を利用した数学的な表現が苦手な生徒が多いことが分かった。根拠を明らかにする必要があるときなど、話し合い活動を中心としながら問題解決させていく授業を重視し、理解を深めさせていく。	
思考・判断・表現	国語と数学が共に全国平均を大きく上回る結果となった。国語では、「短文の内容について、描写を基に捉える」問題の正答率が低かったことについて課題が見られた。言葉や表現を選び、感じたことを短文に表す活動を重視したい。数学では、「数学的表現を用いた説明や証明」問題について無回答率が高かった。考えた課程を表現することが苦手な生徒が多いと考えられる。ICTを活用し、数学的な表現を用いた話し合い活動の充実を図っていく。	

- ①結果分析(管理職・学年主任等)
- ②詳細分析(学年・教科担当)
- ③分析共有(児童生徒の実態把握)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)	
知識・技能	市の正答率に比べ、数学は平均値と並び、理科は平均値を上回ることができた。しかし、国語と社会においては知識の定着に不十分な部分が見られた。自校テストでは、概ね解答できた内容でも正答率が低いものが見られる。系統性やつながりのある内容について、既習事項を確認したり、繰り返し学習させたりして、さらなる定着を図っていき、知識の概念的な理解を大切に、生徒が知識を確実に習得していけるよう学習指導に努めていく必要がある。	
思考・判断・表現	市の正答率に比べ、社会は平均値を上回ることができた。数学と理科は若干下回り、国語については課題が見られる。「言語の特徴や使い方」について平均正答率が低い傾向が見られた。全教科で「知識・技能」を活用し、必要な情報を見つけ整理し、話し合い活動等から自分の考えを深める言語活動の充実を図り、「思考・判断・表現力」を高めていきたい。	

③	中間期報告		中間期見直し
	評価(※)	授業改善策の達成状況	授業改善策【評価方法】
知識・技能	A	1学期の定期テスト(5教科の正答率)が69%となった。引き続き、自主学習を進める取組の更なる強化を目指していく。	変更なし
思考・判断・表現	A	1学期の定期テスト(5教科の正答率)が47%となった。引き続き、身につけた知識・技能を土台とし、段階的に思考力・判断力・表現力の育成を図っていく。	変更なし

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)